

ニコラ＝プッサンの《「時」と「真実」》
(ルーヴル美術館所蔵)
—— 作品に関する史的事項の再検討 (2) ——

小野崎 康 裕*

A propos de *Temps et Vérité* par Nicolas Poussin (Musée du Louvre)
— Investigation sur l'historique du tableau (2) —

Yasuhiro ONOZAKI

Abstract

L'auteur fit des investigations sur le déplacement de *Temps et Vérité* (dit aussi: *Temps soustrait la Vérité aux atteintes de l'Envie et de la Discorde*) qui avait été déplacé de pièce en pièce au Louvre. Ce tableau fut exécuté par Poussin en 1641 pour le cardinal de Richelieu. Au début, il ornait la plafond du grand cabinet au Palais-Cardinal que Richelieu avait bâti. Après la mort du cardinal en 1642, il fut transporté dans l'appartement de la Reine au palais de Fontainebleau probablement par Anne d'Autriche. Après cela, sous le règne de Louis XIV, il fut transporté dans le grand cabinet du Roi au palais du Louvre. L'auteur commence par le grand cabinet du Roi. Cette investigation jette les bases pour examiner le changement et le repeint sur ce tableau.

Key words: Poussin, Temps et Vérité, Louvre

Ⅳ. ルーヴル宮内に於ける移動の状況

この節の課題は、ルーヴル宮の内部に於ける《「時」と「真実」》の移動状況を探るところに置かれる。

《「時」と「真実」》に関する先行研究を概観しても、ルーヴル宮に於ける作品の移動を扱

*教授 美学・美術史

った例はごく少なく、決定的と云い得る研究も未だ現れを見ない。オラニエはこの問題にふれるも、用いられた史料の範囲から見て充分と見做し難い⁽⁴²⁾。しかしこの状況と裏腹に、同宮に於ける移動状況の解明はこの作品の研究に不可欠と見得る。なぜなら、次節に扱う如くこの作品には後世の変更の跡が明瞭に残り、且つそれらの変更が作品の在ルーヴル宮時代に加えられたこと、明らかだからである。作品の被った変更を時空間の系列上に捕らえ込むには、同宮に於けるその動きを突き止める必要がある。この視座に立ち、ルーヴル宮に於ける作品の軌跡に些かなりと新たな光を当てることが以下に試みられる。

(Ⅳ－Ⅰ)「王の大陳列室」

改めて、「王の大陳列室」(挿図 12) 天井に《「時」と「真実」》が姿を現した時期に眼を向けなければならない。われわれは先に、その時期を以って〈1658 年 7 月 14 日〉から〈1669 年〉までの間とした。そこに見積もられたのは最大限の設置可能期間であった。その考察を基に、ここで更なる史料による絞り込みを図る必要がある。第一の手掛りは「ガゼット＝ドゥ＝フランス」第 38 号(挿図 13 a) に掲載された、1662 年 4 月 1 日付の記事に求め得る。その記事は、ルイ XIV 世の不快を拭うべくスペイン王フェリーペ IV 世により派遣された特派大使が、ルイ王に拝謁した旨を伝えたものである⁽⁴³⁾。記事中に次の記載が認められる。

「1662 年 4 月 1 日・パリより／過月の 24 日、大使一行の案内役を務められたアルマニャック伯及びベルリス、ボンヌーユの諸侯は…王の馬車にて大使をルーヴル宮へ御連れした。…入殿に際し、そこからの案内に長を務めるノワイユ伯が出迎えられ、大使を〈王の大陳列室〉に導かれた。……⁽⁴⁴⁾」

1662 年 3 月 24 日、特派大使がルーヴル宮に王を訪ねる。記載の通り、接見の場は「王の大陳列室」に設けられた。この事実に着目すると、美術品設置を含む大陳列室の装備はこの時まで完成していた、という推定が自ずから成立する。装備未完の部屋に接見の場が設けられたとは考え難い。すると必然的に《「時」と「真実」》も、〈1662 年 3 月 24 日以前〉に設置された可能性が増大する。そしてこの可能性に支持を与えるのが、財務総監コルベール (Jean Baptiste Colbert, 1619–83) による出納記録である。1669 年 2 月 6 日、「王の大陳列室」に装備された指物装飾に関する最終支払いが行われている。その支払い記録によると、首席指物師ピエール＝ディオニ (Pierre Dionis) が作業全体を担当、費用総額 2850 リーヴル、装着工事の実施は 1661 年であった⁽⁴⁵⁾。この記載により、大陳列室に天井用額縁の装着された年が

〈1661年〉であったことをわれわれは知り得る。なぜなら、ピエール＝ディオニは「王の大陳列室」の為に天井用額縁一式を見積もった〈1658年7月13日の見積書〉の作成者に他ならない⁽⁴⁶⁾。そこでこの見積書と支出記録を突合せ、更にディオニへの全支払い記録を洗うと、1661年の工事には天井用額縁の装着以外に該当を見出し得ぬからである。天井用額縁の装着は1661年と特定され得る。そればかりではない。1661年に装着された額縁の中にわれわれの作品の為に額縁が含まれていたことも、同見積書からほぼ確実に認め得る⁽⁴⁷⁾。そこでこれを先の記事に繋ぐと、大陳列室が接見の場に用いられる前年に、作品固定に必要な額縁の装着が完了していたことになる。作品設置を特派大使の訪問以前に見る先の推定が、これにより支持を得ることは明らかであろう。もとより、画布の設置を額縁装着の時点に求めることも可能である。しかしディオニの踏んだ実際の作業過程が不明である以上、工事時の画布設置に絶対的な比重を置くことは妥当でない⁽⁴⁸⁾。それゆえ以上の史料から《「時」と「真実」》の設置時期を絞るとすれば、〈1658年7月14日以降〉にして〈1662年3月24日より前〉の期間が最有力であり、額縁装着工事の実施された〈1661年〉が中でも注目を引く、と結論されるべきであろう。

（Ⅳ－2）《「時」と「真実」》を取り巻く状況

作品のその後の動向を探るに当たり、関りの予想される関連状況にあらかじめふれておくのが適切と判断される。

ルイ XIV 世の収集絵画は増加の一途を辿る。首席建築家ルイ＝ル＝ヴォー（Louis Le Vau, 1612–70）により、1661年、新たに絵画専用の陳列室が計画される⁽⁴⁹⁾。ル＝ヴォー逝去後、絵画陳列室を拡大する必要が生じ、当初の規模を大幅に上回る「王の絵画陳列室」（le Cabinet des tableaux du Roy）がルーヴル宮内に設けられる⁽⁵⁰⁾。複数の史料に基づき、この絵画陳列室の最終的なスペースは、今日の「ダリュ階段」（l'escalier Daru）踊り場を含む一帯から「サロン・カレ」（le salon carré）までの区画（挿図 14 a・同 b）と同定され得る⁽⁵¹⁾。比較的長い間取りを得た絵画陳列室は、「かくも多くの見事な作が一同に会した場所はヨーロッパ中に絶えて存在しなかった⁽⁵²⁾」と謳われる壮観を誇った。しかし 1682 年 5 月 6 日、ルイ XIV 世は——77 年に自ら公告した通り——ヴェルサイユ宮に座を定める。王の意志に伴い、王室美術コレクションの多くもパリからヴェルサイユへ搬送される。コレクション移送は 1673 年頃に一度行われたが、85 年にはそれが本格的なピークに達し、1686 年、絵画 3 点の搬送を以って一応の終息を迎える⁽⁵³⁾。大規模なこの移送は、ルーヴル宮に残される作品の側にも何らかの影響を与えずにおかない。われわれの作品はこの様な状況に取り巻かれていた。

(Ⅳ－3)「王の大陳列室」からの移動

1683年の時点で、《「時」と「真実」》は今だ「王の大陳列室」天井に位置した可能性を認め得る⁽⁵⁴⁾。しかしさほどの時をおかず、作品は大陳列室天井を離れたものと見られる。筆者のこの見解は次の根拠に基づく。

1690年2月14日から10月30日にかけて、パリに留め置かれた王室美術に関する記録が作成されている。この記録は《「時」と「真実」》を、「無鍍金の額縁もつ…9ピエ或いはその周辺の…プッサン描く絵画⁽⁵⁵⁾」と記す(挿図15)。ところがこの作品のもつ長い一辺は、1683年には12ピエから13ピエと記録されていた⁽⁵⁶⁾。ここから、90年の記録以前に画布のサイズに変化の生じたことが知られる。一方、ディオニによるこの作品専用の額縁は、作品本来のサイズに見合い12ピエ半の縦寸を有していた⁽⁵⁷⁾。すると90年の記録作成時点で、作品は既に大陳列室天井の専用額縁に収まり得なかったことになる。額縁と画布の間に3ピエから4ピエのずれが生じる為である⁽⁵⁸⁾。したがってこの時点より前に、われわれの作品は元の天井額縁を離れたものと見做す他ない。のみならず〈1658年7月13日の見積書〉によると、爾余の大陳列室・天井用額縁のサイズは最も大きなもので7ピエを超えない。すると「9ピエ或いはその周辺」の画布は、専用額縁を離れて大陳列室天井に留まり得ない。90年の記録以前にこの作品が「王の大陳列室」の天井を離れたことはほぼ確実と見得る。

天井を離れたこの作品は、「王の大陳列室」から他所へ移されたものと見られる。これを記した史料は見当たらない。しかし、この部屋そのものの置かれた状況が移動を支持する。遅くも1681年頃、「王の大陳列室」がコレクション絵画を陳列する役割を失ったことはまず間違いない。コルベールの出納記録は大陳列室からの絵画移動を証し、同時代の記述は陳列絵画の失われた部屋の状況を浮き彫りにする⁽⁵⁹⁾。この状況はまた、ドルベール(François d'Orbay, 1634-97)によって作成された一枚の図面にも現れる。ル＝ヴォーの仕事を引き継いだドルベールは、1692年、建築アカデミーに場所を与える為ルーヴル宮2階の部屋割りプラン(挿図16)を作成する⁽⁶⁰⁾。プランには大陳列室も含まれていた。挿図の図面に明らかな通り、「王の大陳列室」は間仕切りによって分割され、一部は通路に、残るスペースは「ジュランのアトリエ」(«Atelier de Geulin»)に当てられている⁽⁶¹⁾。このプランは同年2月8日に承認を受けた模様である⁽⁶²⁾。この事実を前に、大陳列室本来の役割の失われていたことをわれわれは否定し得ない。同時にわれわれは、天井を離れた《「時」と「真実」》がなおこの部屋に留まる理由を見出すことが出来ない。この作品が大陳列室を離れた可能性は濃厚である。

「王の大陳列室」を離れたとすると作品の移動先が問題となる。移動先として最も高い可能性をもつのは、ダリュ階段からサロン・カレへの区画——すなわち「王の絵画陳列室」——と

見られる。1692年のルーヴル宮2階を表した見取り図面（挿図17a）がこれを仄めかす⁽⁶³⁾。図面の同区画には「ル＝ブラン氏の絵画陳列室」（«Cabinet de Tableau de M. Le Brun»）なる室名を認め得る（挿図17b）。シャルル＝ル＝ブラン（Charles Le Brun, 1619–90）は、1662年7月、「首席画家」と同時に王の所有する「デッサンと絵画の管理官」に任命されていた⁽⁶⁴⁾。それゆえ室名から窺い得るのは、ル＝ブランの管理下にあった在ルーヴル宮コレクションがこの区画に集約されたことである⁽⁶⁵⁾。おそらくヴェルサイユ宮への移送後、残された王室絵画をル＝ブランがここに再陳列したと見るのが妥当であろう。見取り図面に照らすと、われわれの作品がこの部屋に移された可能性を無視することは出来ない。この可能性への最も強い支持は、次に見る「王立図書館」天井から送られて来る。われわれは「王立図書館」へ進まなければならない。

（Ⅳ－4）「王立図書館」

1683年から1710年までの王室絵画記録は、《「時」と「真実」》の設置場所にふれていない⁽⁶⁶⁾。1713年、この作品を「王立図書館」（la Bibliothèque royale）の天井に明記した史料が現れる。この図書館を巡るジュルメン＝ブリス（Germain Brice, 1652–1727）の記述である。ブリスは次の様に記す。

「名高いこの図書館は、今日かてて加え、来館者にとり心地よき場所をも享受している。…図書館の占める諸区画は、以前多くの美術品と壮麗なる品々を以って飾られた場所であった。それゆえ天井は、今も趣き高雅な装飾に覆われている。それら装飾のひとつとして、卓越したプッサン画が目に入ろう。それは、《真実》を明るみに出す《時》を表した一枚である。⁽⁶⁷⁾」

この記載は、ルーヴル宮の2階部分を記した記述に含まれる。それゆえ、ここに記された王立図書館がルーヴル宮の同階にあったことは直ちに知られる。問わるべきは、われわれの作品を天井に擁したこの図書館の正確な位置である。

リシュリユー通りに面した「王立銀行」（la Banque royale）行舎に移る前、1712年から21年9月に至る間、王立図書館はルーヴル宮2階に場所を有した⁽⁶⁸⁾。1712年、この図書館に場所を与える為、同宮内の区画使用権に一部変更が加えられる。絵画彫刻アカデミーに権利の与えられていた一定区画が、図書館へ明け渡されたのであった。王立図書館の位置特定に、この事実が手掛りをもたらす。ブリスによると、絵画彫刻アカデミーの移譲した場所は「[かつて]王立図書館に予定された区画」であった⁽⁶⁹⁾。同一の証言は、絵画彫刻アカデミー書記官長を

勤めたゲラン (N. Guerin, 就任 1681) から得ることが出来る。王立図書館に場所を空けると引き換えに、同アカデミーはルーヴル宮 1 階「太后の居域」に新たな場所を取得する。この点にふれたゲランは、その場所が「〈王立図書館・設置予定区域〉内に以前所有した区画の代替として」アカデミーに与えられた区画であることを明記する⁽⁷⁰⁾。すなわちアカデミーの手放した区画は、ここでも「王立図書館の予定区域」と述べられている。ゲランとブリスの一致は明白である。そして両者の云う「予定区画」は、ルーヴル宮 2 階に確かに存在した。ル＝ヴォーによって計画された〈王立図書館予定区画〉は、後に「王の絵画陳列室」となる区画に他ならない。このことは、1661 年に作成されたルーヴル宮 2 階の増築プラン (挿図 18) 或いは「サロン・カレ」を含むより後年のプラン (挿図 19) を通じて明瞭に知られる⁽⁷¹⁾。いずれの図面も、王立図書館に予定された区画が後の「王の絵画陳列室」に当たることを示している。「以前多くの美術品と壮麗なる品々を以って飾られた場所」とブリスの記した部屋は、かつて「王の絵画陳列室」に用いられた区画と同定される。

ル＝ヴォーが王立図書館に予定した区画は、「絵画陳列室」に隣接するその元来の位置により、早くから変遷に晒されることとなった。挿図 18 及び 19 から知られる様に、当初の絵画陳列室は今日見る「ダリュ階段」のスペースにほぼ収まる規模であり、図面の左手には図書館用の区画が伸びていた。しかし、増加する王の絵画コレクションを収めるべく絵画陳列室の規模が拡大され、図書館用の区画がこれに吸収されていく⁽⁷²⁾。1673 年から 75 年にかけて、この区画を絵画陳列室へ改装する工事が実施される⁽⁷³⁾。かくして王立図書館用の区画は「王の絵画陳列室」へ改装され、コレクション移送後も所謂「ル＝ブラン氏の絵画陳列室」として王室絵画を収めていく。1702 年、「サロン・カレ」に通じる区画部分の使用が絵画彫刻アカデミーに許される⁽⁷⁴⁾。1712 年、同アカデミーがこの区画を明け渡すことは述べた。アカデミーのみならず、爾余の壁面を埋めた王室絵画も移動せられ、程なくダンタン公 (Louis-Antoine de Paradaillan de Gondrin, marquis de Montespan, marquis puis duc d'Antin, 1665-1736) 所有の邸宅及び「アポロンのギャラリー」へ搬入される⁽⁷⁵⁾。この区画は王立図書館によって占有されるに及ぶ。

先に筆者は 1692 年のルーヴル宮見取り図面を手掛りに、《「時」と「真実」》が「王の絵画陳列室」——コレクション移送後「ル＝ブラン氏の絵画陳列室」——に移されたものと推定した。同じ区画を「王立図書館」が占有、その天井に作品が明記されたことにより、われわれの推定は強い支持を得たと云い得るだろう。

（Ⅳ－５）「絵画アカデミー会議室」

ルイ XIV 世の崩御に伴い、1715 年、王室コレクションはルイ XV 世により相続される。1717 年、ブリスにより再度《「時」と「真実」》が王立図書館・天井に記される⁽⁷⁶⁾。1721 年、同図書館がルーヴル宮を離れる。王立図書館の離れた後、1752 年に至るまで、作品は「絵画アカデミー所有する諸室の内なる一天井」に記録される⁽⁷⁷⁾。管見に入り得た限り、この部屋の正確な場所を追跡した研究は見当たらない。われわれは再び、絵画アカデミーの所有した一室の場所を探らなければならない。

1734 年、絵画彫刻アカデミーはルーヴル宮 2 階の「サロンに隣り合う広間」を取得している。この「広間」は、1712 年に同アカデミーから王立図書館へ移譲された「絵画陳列室」の区画に他ならない⁽⁷⁸⁾。そこでこれ迄の行論により、再取得されたこの区画内に問題の部屋の在ったことが自ずから浮ぶ。しかし、その後 1752 年までの間に同アカデミーは「アポロンのロトンド」及び旧「王の大陳列室」を取得し、同宮 2 階に限っても狭からぬスペースを占有した⁽⁷⁹⁾。それゆえ性急な予断は回避されなければならない。位置特定の試みが必要である。

われわれの作品を擁した部屋は、多くの場合「絵画アカデミー所有する諸室の内なる一室」とのみ記される。しかし幾つかの史料は、この部屋が絵画彫刻アカデミーの「会議室」（salle d'assemblée）或いはより詳しく「小会議室」（la petite salle d'assemblée）であったことを明記する⁽⁸⁰⁾。1752 年のルーヴル宮見取り図面（挿図 20）に同アカデミーが所有した「会議室」の所在を求めると、同宮 2 階、現在の「ダリュ階段」踊り場の区画（挿図 20 中の〈P3〉）及び旧「王の大陳列室」（同〈P5〉）の 2 ヶ所がそれに当てはまる⁽⁸¹⁾。これにより、問題の「小会議室」はこのいずれかに絞られる。1828 年から 34 年の間に作成された大部の美術品カタログは、われわれの作品を擁した部屋が、この時既に「美術館の大階段」と化していた事実を記す⁽⁸²⁾。この記録が部屋の特定を終着へ導く。革命勃発の後、1793 年以降ルーヴル宮は美術館として使用され、1803 年から 22 年まで「ナポレオン美術館」（Musée Napoléon）と呼称した。1807 年、建築家ペルシエ（Charles Percier, 1764–1838）とフォンテーヌ（Pierre-François-Léonard Fontaine, 1762–1854）の二人により、この美術館に「ナポレオン階段」と通称された大階段（挿図 21）が建造される⁽⁸³⁾。先程のカタログ記す「美術館の大階段」である。この階段の位置を、挿図 22 に示した 2 枚の図面が明らかにする。図面から知られる如く、ナポレオン階段はその後身たる「ダリュ階段」と向きを 90 度異にしつつ、旧「絵画陳列室」の区画をそのまま取り込んで建造されたものであった⁽⁸⁴⁾。ここから、問題の「小会議室」の位置が判明する。小会議室は旧「絵画陳列室」の区画に含まれ、最初「ナポレオン階段」に、そして現在では「ダリュ階段」の踊り場に姿を変えた部屋——挿図 20 中の〈P3〉——に他ならない。

上記の位置特定により、われわれの作品を天井に擁した「小会議室」は、疑いなく絵画彫刻アカデミーが1734年に再取得した区画の一部であったことが知られる。その部屋は、ル＝ヴォーによって計画された本来の「絵画陳列室」であった。この部屋は、「ル＝ブラン氏の絵画陳列室」を経て「王立図書館」の一部となり、1734年絵画アカデミーにより再取得されたものに他ならない。先にわれわれの推定した如く、1690年以前に《「時」と「真実」》が「絵画陳列室」の区画、就中この部屋に移されたとすれば、記録上の変遷と裏腹に、その後作品は一貫して同室の天井に位置した可能性が高まる。変遷の生じたのは作品でなく、むしろこの部屋の占有者の側と見ることが出来る。

(Ⅳ-6)「グランド・ギャルリー」へ

1752年2月12日より前、われわれの作品は絵画アカデミーの手で「小会議室」の天井より取り降ろされる⁽⁸⁵⁾。1762年、「アポロンのギャルリー」(挿図24)内に作品の所在が記される⁽⁸⁶⁾。しかし遅くも1781年までに、《「時」と「真実」》は同ギャルリーを離れた模様である⁽⁸⁷⁾。設置時期は不明ながら、アンリⅣ世に関係する部屋に作品が移されたことは間違いない。1796年作成の目録記載がこれを教える。以前の作品設置場所につき、目録は「アンリⅣ世による据域の一室」と記す⁽⁸⁸⁾。「グランド＝ギャルリー」の建立者アンリⅣ世(在位1589-1610)は、ルーヴル宮1階の「プティ・ギャルリー」(挿図25)及び現在の「アウグストゥスの間」(la salle d'Auguste)を完成させている⁽⁸⁹⁾。したがって目録に記された「据域の一室」は、同宮1階、上記いずれかの部屋を指した可能性が見込まれる。この把握は、1792年9月8日の記録と符号する。この記録に於いて、《「時」と「真実」》は同宮1階に所在した諸作品の中に録されている⁽⁹⁰⁾。

1752年から92年までの移動状況は上記の如くであるが、この間に王室コレクションを囲む状況は一変する。われわれの作品は、この変化を通じて場所を宿命付けられていく。変化をもたらしたのは、革命及び付随する次の動向であった。

1774年以降、王室コレクションはルイⅩⅥ世に受け継がれていた。89年7月14日、革命が勃発する。その後、ルーヴル宮に〈美術館〉を設立する動きが具体化する。91年5月26日、「学術と芸術に関する偉大な品々をルーヴル宮及びテュイルリー宮に再集結させる」旨が布告される⁽⁹¹⁾。92年8月11日、美術館を設立する為の委員会が制定される⁽⁹²⁾。同月17日と18日、絵画125点がヴェルサイユからルーヴル宮に搬送される⁽⁹³⁾。翌19日の法令により、王室美術コレクションが国家に移管される⁽⁹⁴⁾。93年7月4日迄に、他の著名な画家の作と並びプッサンの諸作品が展示予定場所に設置される⁽⁹⁵⁾。7月27日、国民公会がふたつの点、すなわち93

年8月10日に〈美術館〉を開館すること、そして美術館にルーヴル宮「グランド＝ギャルリー」を当てること、これらを正式に布告する⁽⁹⁶⁾。そして1793年8月10日、「グランド＝ギャルリー」の一部とその入口たる「サロン・カレ」を会場に〈共和国の美術館〉が開館に及ぶ。

注目すべきは展示作品の設置場所である。国民公会の決定に伴い、作品の多数はグランド＝ギャルリー（挿図26）への展示を宿命付けられていた。《「時」と「真実」》もこの宿命を負う。1793年11月5日から12月3日迄に作成された〈美術館〉の目録は、この作品を同ギャルリー「第7径間」（7^e Travée）に記している⁽⁹⁷⁾。1797年5月14日、グランド・ギャルリー内に審査委員が集まり、《「時」と「真実」》の展示継続を決定する⁽⁹⁸⁾。その後1800年代に成立した種々の記録も、一致してこの作品をグランド・ギャルリー内に記録する⁽⁹⁹⁾。われわれの作品はこの様に、20世紀に入るまで同ギャルリーの一角を飾り続ける。

註

- * 邦語による表記法と欧文省略記号は本論（1）に従う。
- * 註記に現れる太字箇所「Ⅰ（…）」は本論（1）の《主要文献》中の当該箇所を指し、「Ⅱ（…）」は本稿後掲《主要文献Ⅱ》の当該箇所を指す。
- * 引用原文・同訳文中に施された下線は断りのない限り筆者による。また、[...] は筆者による補足或いは省略を示す。

(42) Ⅰ（B-1）: 1959 Aulanier.

(43) Ⅱ（A）: 1662 Gazette, 305–7 (*De Paris, le premier Avril 1662*)——ルイ XIV 世の不快はスペインに対するものであった。スウェーデンの特派大使がロンドン入りした折、スペイン大使と仏大使の間に馬車の上席を巡る紛争が発生、仏大使側が馬の死亡及び従者の負傷という被害を蒙った。ルイ王はこの事件に憤り、スペイン王に強く謝罪を求めている（Cf. 306）。なお、この事件の概略はヴォルテールも採り上げている。Ⅱ（F）: 1751 Voltaire, chap.VII (109–10).

(44) 1662 Gazette, 305（挿図13 b）“*De Paris, le premier Avril 1662*: Le 24 du Passé, le Comte d’Armagnac, & les Sieurs de Berlize & de Bonneüil, Introduteurs des Ambassadeurs [...] dans les carrosses de Leurs Majestez, l’amenèrent au Louvre [...] Le Comte de Nouailles qui en est Capitaine, le receut á l’entrée, & le conduisit au grand Cabinet du Roy..”

(45) Ⅱ（B）: 1664–1715 CBR. I, col. 322 (Année 1669–Louvre). “6 febvrier: á Luy [i.e. Pierre Dionis], pour parfait payement de 2850 livres á quoy montent les ouvrages de menuiserie et sculpture du lambris du cabinet du Roy qu’il a faits au chasteau du Louvre en 1661.....650 livres”——なおルイ XIV 世時代のルーヴル宮に施された工事全般に関し、次の研究から有益な示唆を得た。Ⅰ（A-4）: 1927 Hauteccœur.

(46) Ⅰ（A-3）: 1658 Devis.——見積もり記載中にディオニ自身の名が記され、見積書の末尾中央に署名の残るところから、この見積書がディオニによって作成されたことは確かである。またコルベールの出納

記録 (col. 322) によると、ディオニは「王の大陳列室」ばかりでなく、ルーヴル宮「グランド＝ギャルリー」やテュイルリー宮内の指物装飾も担当している。

- (47) 見積もられた額縁のサイズと画布のサイズが符合する点、更に見積書の示唆する額縁取り付け予定場所と作品の設置場所が一致する点、このふたつの点により、1658 年の見積書に《「時」と「真実」》用の額縁が含まれたことはほぼ確かである。また見積もり内容に変更の生じたことを示す資料が見出されぬところから、1661 年に装着された額縁は 58 年の見積書に基づいたものとする以外にない。この理由で、見積書に記された《「時」と「真実」》用の額縁は、記載された他の額縁と共に 1661 年に装着されたものと見做し得る。なお、1658 年の見積書に記された額縁のサイズについては本論前記 (33) を参照。また「王の大陳列室」に於ける《「時」と「真実」》の設置場所については同 (32) を参照。
- (48) 装着の過程を窺わせる記載は 1658 年の見積書 (1658 Devis) 中に見出されない。またディドロ (Denis Diderot) ・ダランベール (J. Le Rond d'Alembert) の『百科全書』に含まれた「指物」(menuiserie) に関する詳細な記述 (*Encyclopédie ou Dictionnaire raisonné des sciences, des arts et des métiers*,...X, 1765, Samuel Faulche, 346-57), 或いは 1792 年の美術大辞典に含まれた「額縁」(bordure) や「天井画」(plafond) に関する記述 (Watelet & Lésvesque, *Dictionnaire des arts de peinture, sculpture et gravure*, I, 1792, L.F. Prault, 260-2; *Ibid.*, V, 76-93) 等も天井用額縁の装着にふれていない。
- (49) 挿図 18 《ルーヴル宮 2 階「王の占有居域」拡張第 1 プラン》(II (B)・ML Rec, II, fol. 31) を参照。「アポロンのギャルリー」の右に繋がる卵形の «salon» (=アポロンのロトンド) の上に《grand cabinet pour tableaux》, そのすぐ上に《cabinet des petits tableaux》の記名が認められる。これら陳列室に関する具体的な工事年及び完成年は知られていない。しかしそれらが、〈1667 年 5 月 7 日以前〉に完成していたことは間違いない。67 年 5 月 7 日、「王の絵画陳列室」を会場とした絵画彫刻アカデミー第一回講演会が実施されている (II (D): 1668 Conférences, 1)。したがって陳列室は、この時までには完成していなければならない。
- (50) 拡大された「王の絵画陳列室」の最終的な完成年月日は不明である。しかし、新たな指物取り付けが〈1679 年 7 月 9 日以前〉に終了していたことは確かである。コルベールの出納記録によると、「王の絵画陳列室」への指物作業は 1673 年、74 年、75 年に亘って実施されたが、更にそれより後に工事が一度行われている (1664-1715 CBR, I, col. 1123, 1240)。最後に行われた工事に対する賃金支払いは〈1679 年 7 月 9 日〉であった (col. 1123)。それゆえ「王の絵画陳列室」の指物作業は、工賃支払日たる 79 年 7 月 9 日以前に終了していなければならない。
- (51) 「王の絵画陳列室」の位置は文書と図面の双方から推定し得る。先ず文書による記載を刊行年の順に挙げる。
- (A) II (B). 1681 MG, décembre, «Voyage du Roi à Paris: Relation de ce qui s'est passé dans tous les lieux où S. M. a passé» (232-78), 239 “Il [i. e. le Cabinet des Tableaux] est dans un appartement neuf à côté de la superbe galerie, appelée la galerie d'Apollon” (絵画の陳列室は、「アポロンのギャルリー」と呼ばれる高貴な廊に隣接した新しい居域の内に位置する。)
- (B) II (B)・1684 Brice, I, 15 “Le lieu où sont les Tableaux du Roy, est dans un appartement qui se trouve assez proche du bout de la grand Galerie.” (王の絵画が位置するのは、「グラン・ギャルリー」端口に近接した居域内である。)
- (C) I (A-2): 1726 Saugrain, II, art. 《Paris》(col. 939-1076), col. 1042. “Cette Galerie [i. e. la Galerie d'Apollon] ..est encore plus curieuse depuis que l'on y a joint le Cabinet de Peinture, ou le dépôt des tableaux du Roy” (この「アポロンのギャルリー」は「絵の陳列室」もしくは「王

の絵画収蔵室』と結ばれて以来、いや増して興味を惹くものとなっている。）

上掲（A）（B）の記載から、「王の絵画陳列室」は「アポロンのギャラリー」に隣り合い、「グラン・ギャラリー・端」に近い場所を占めていたことが知られる。この時点で、グランド・ギャラリー・端に接した「サロン・カレ」から「ダリュ階段」へのスペース——現在の《salle Duchâtel》《salle Percier et Fontaine》を含む一帯——が浮び上がる。この推定を補強するのが（C）に挙げたソグレン（Claude-Marin Saugrain）による記載である。（ソグレンの記載は具体性に富み、生の情報に接したか或いは直接的見分によった記述と認め得る。）「アポロンのギャラリー」に関するこの記載は、ルーヴル宮「王の占有居域」を記した記述に含まれる。記述は「王の寝所」→「王の大陳列室」→「サロン・オヴァル（＝アポロンのロトンド）」→「アポロンのギャラリー」の順に進められる。本論（1）の挿図10によって跡付ければ、G→F→E→Dの順となる。そして引用の如く「アポロンのギャラリー」と結ばれた「王の絵画陳列室」に言及した後、「サロン・ヴィド（＝サロン・カレ）」→「グラン・ギャラリー」と記述が進められる。すなわちこの記述は、「王の大陳列室」側から出発し、「アポロンのギャラリー」を経由して「ダリュ階段」「サロン・カレ」側へと進むものに他ならない。この進行順序に照らすと、「王の絵画陳列室」は明らかに「ダリュ階段」側に位置する。また上記下線部分から、絵画陳列室が「アポロンのギャラリー」と結ばれていたことも知られる。すると挿図18からも容易に知り得る通り、このギャラリーと結ばれ得るのは「ダリュ階段」から「サロン・カレ」へ——挿図では《grand cabinet pour tableaux》他から《grand galerie》へ——伸びる区画以外に該当を見出し得ない。それゆえ、「王の絵画陳列室」の位置はこの区画に特定されることが出来る。

(52) II (B): 1752 Brice, I, 68-9, ligne 28 et 1-2.

(53) 今日迄に確認されたヴェルサイユ宮へのコレクション移送の状況は次の通りである。

1) 実施年	2) 運搬等担当者	3) 支給金額
1673 頃（正確な年月日不明）	Charles Le Brun	293 livres 13 sols
1682/83（83年1月3日より前）	Houasse	285 livres 15 sols
1685（4月8日より前）	Charles Hérault	423 livres*
1685（4月11日～7月29日）	Paillet	548 livres
1685（4月29日より前）	Paillet	1224 livres 6 sols
1686（7月7日より前）	Charles Hérault	51 livres（絵画3点のみ）

（* 同人に対し移送用絵画の搜索手当として別に500リーヴルが同じ日に支払われている。）

移送の実施回数及び支給金額から判断して、コレクション移送のピークが〈1685年〉であったことは明らかである。またコルベールの出納記録に、翌86年に運ばれたのは3点の絵画であった旨が明記されている。上表の作成に当り、特に次の史料からデータを得た。BNF, *Mélanges Colbert* 292, f° 43 verso; 1664-1715 CBR, II (col. 211, 615, 616, 734, 759, 985.) 更に次の研究を参照。A. Brejon de Lavergnée, "Introduction au inventaire Le Brun." In: *L'inventaire Le Brun de 1683...* (I (A-3): 1683 Inven Le Brun), 28-9; I (B-2): 1994 Schnapper, 326-7.

(54) 1683年のコレクション絵画目録（1683 Inven Le Brun）に記載されたこの作品のサイズと1658年7月13日付見積書（1658 Devis）に記入された天井用額縁のサイズがほぼ一致するところから、目録の作成された時点でこの作品が「王の大陳列室」天井の額縁内に収められていたことが推測され得る。

(55) I (A-3): 1690 Procès-verbal. "Un tableau du Poussin [...] de neuf pieds [...] ou enuiron, avec sa uordure non dorée .." ——ここに転記したのは挿図15（2～6行）の一部に当る。同一の記載が、1691年と92

年の各「王室美術品目録」(II(A): 1691 Levé, 1692 Inven)中に認められる。更に後年の目録も記載内容はほぼ同じである。

- (56) 1683 Inven Le Brun, N° 360. “Un tableau du Poussin [..] long de douze à treize pieds .” —— 画布のサイズ等変化の詳細にここでは立ち入らない。この問題は次節に扱う。
- (57) 1658 Devis 及び本論前註 (33) 参照。
- (58) 通例にしたがい 1 ピエ = 32.5 cm で計算すると、3 ピエの場合 97.5 cm, 4 ピエの場合 130 cm のずれが額縁と画布の間に生まれることになる。
- (59) コルベールの出納記録 (1664–1715 CBR, I [1664–80]) には、「王の大陳列室」からの絵画移動を証する複数の記載が認められる。先ずこの移動に関係する予算として、1673年に21000リーヴルが予算組みされる (col. 678)。この予算に基づき「王の陳列室 [= 大陳列室] の絵画を受け容れる為」(pour y recevoir les tableaux du cabinet du Roy: col. 742), 移設先に工事が施される。最大の移設先は——工事代金から見ても——明らかに「王の絵画陳列室」であった (Cf. col. 683, 684, 685, 741, 742, 744, 1123, 1240)。絵画陳列室への作品移動が1679年7月9日以前に行われたことは、工事代金を支払う同日の記載に窺うことが出来る。7月9日の支払い記載は「陛下の絵画が[現在]置かれている陳列室に」(.au cabinet où sont les tableaux de S.M. col. 1123) 施された工事を記しているが、その記法から、この時点で既に絵画陳列室への移動の為されていたことが知られる。(この‘cabinet’を大陳列室と解することは出来ない。出納記録では、大陳列室は必ず‘le cabinet du Roy’ と記される。)しかし移動先は絵画陳列室が全てではない。大陳列室の絵画は「サロン・カレ」にも移される。絵画移設に備えサロンに諸工事が施される。それら工事に対し、1680年6月16日から81年1月5日までに代金が支払われ (col. 1239, 1240), 81年初めには受け入れ態勢の整ったことが知られる。これらの出納記録を総合すると、1681年頃には「王の大陳列室」から陳列絵画の消えた状況が浮かび上がる。そしてこの状況は、ルーヴル宮に関する同時代の記述と符合する。先ず、1684年頃の同宮内を記した高名なブリスの記述 (1684 Brice, I, 11–27) は、「王の大陳列室」を記述の域外に放置し室名にさえふれない。われわれは「王の絵画陳列室」にさかれた記述量との間に、歴然たる状況の違いを認めないわけにいかない。しかし、ブリスのそれに増して具体的なのはソグレンの記述である。「サロン・オヴァル (= アポロンのロトンド)」に関し「このサロンの壁は王の絵画で飾られている (Les murs de ce salon sont revêtus des tableaux du Roy.. 1726 Saugran, II, col. 1042)」と述べ、「絵画陳列室」を巡りアルバーニ、プッサン、グイード＝レーニ、ル＝ブラン、ウェロネーゼらの作品を記した (col. 1042–3) ソグレンが、「王の大陳列室」に対しては打って変わり、《「時」と「真実」》を除き唯1点の美術品の存在も記していない。記述のこの相違は、大陳列室から作品の失われたことによると捉える他ないだろう。——ブリスと異なり、ソグレンの記述年を特定することは出来ない。しかしそれが、「王の絵画陳列室」完成後にしてヴェルサイユ宮へのコレクション移送以前のものであることは間違いない。プッサンの《エリエゼルとリベカ》《サビニの女たちの略奪》等、ソグレンの名指した作品の多くが、後にヴェルサイユ宮内に録される作品だからである (Cf. I (A-3): 1709–10 Inven Bailly)。
- (60) ML Rec, II, fol. 35. ——「王妃 (マリー＝テレーズ) の居域」の一角を建築アカデミーに与える目的でこの図面が作成された。
- (61) ‘Geulin’はこの時代バリーに住んだ‘Estienne Geulin’ (画家・彫刻家・版画家・彩色家) を指したものと捉え得るが、人物その他に関し詳細は不明である。
- (62) II (B). BN Topo, fol. 51 et 106 ——ドルベールによる最初のプラン作りは1692年1月31日。手直しの加えられた後、翌2月8日ウィラセール (Villacerf) ——建築総監の地位にあったÉdouard Colbert,

- marquis de Villacerf (1628–99) ——によりプランが承認された。Cf. 1927 Hauteceœur, 199.
- (63) BN Topo, Va 218 c.
- (64) II (E): 1752 Lépicié, I, 33–4. ——この書の著者ベルナール＝レピシエ (1698–1755) は、絵画アカデミー会員と同時に同アカデミーの修史官を務めた。したがってこの書が生息の情報に基づいて書かれたことは疑いなく、ル＝ブランを巡る記述にも極めて高い信憑性を認め得る。
- (65) この推測はII (B): 1698 Brice (I, 31) の記述とも符号する。1698年の記述書にも、ブリスは「グラン・ギャルリー端口に近接した占有区画内」に王の絵画の存在したことを明記している。但し、その記述は以前のそれを最大に活かしたものである為、これ以上の事実を掴むことは出来ない。
- (66) 1683 Inven Le Brun (N° 360); 1690 Procès-verbal (N° 360); II (A): 1691 Levé (N° 360); 同: 1692 Inven (N° 360); 同: 1706 Inven (fol. 191 et al.); I (A-3): 1709–10 Inven Bailly (Poussin: N° 33); 同: 1710 Inven Coypel (N° 48). ——これらの内1706年の目録のみ、作品が「天井に (en plafond)」飾られていたことを記す。この点はオラニエも指摘する (Cf. 1959 Aulanier, 82)。
- (67) II (A): 1713 Brice, I, 43. “Cette célèbre bibliothèque jouit à present d’une situation bien plus commode pour le public, Les appartemens qu’elle occupe avoient été autrefois décorés avec beaucoup d’art & de magnificence, & les plafons sont couverts d’ornemens d’un goût exquis, dans un desquels on remarquera un excellent tableau de Poussin, qui fait voir le temps qui découvre la vérité.” ——ブリス記述書の有する史料価値について述べる必要はない。これについては、例えば次の17世紀仏史料案内書を参照。BOURGEOIS, Émile et Louis ANDRÉ. *Les sources de l’histoire de France XVIII^e siècle (1610–1715)*. I. 1913. Paris: Auguste Picard, 108–9.
- (68) Cf. II (B): 1725 Brice, I, 343; 同: 1752 Brice, I, 364; 同: 1765 De la Force, II, 264; I (A-4): 1779 Hurtaut/Magny, I, 595–6; II (C): 1782 Le Prince, 52. ——王立銀行行舎への蔵書移動は<1721年9月14日>に行われた (1779 Hurtaut/Magny, I, 596)。
- (69) 1713 Brice, I, 42–3. “On a fait des changemens considerables en l’année 1712, dans la disposition des appartemens du Louvre. Ceux qui étoient occupez par l’academie de peinture ont été destinez pour la bibliothèque royale qui y est à present [...] logée...” (1712年、ルーヴル宮の区画配置に大幅な変更が加えられた。絵画アカデミーに占有されていた諸区画は、王立図書館の為に予定されたものであった。王立図書館は現在、[...] この諸区画に居を許されている。)
- (70) II (D): 1715 Guérin, 32. “C’est luy [i. e. Pair de France] qui a obtenu du Roy le logement que l’Academie occupe presentement au Louvre, sous l’Appartement de la feue Reine-Mere, à la place de celui qu’elle avoit auparavant dans le lieu que l’on prepare pour mettre la Bibliothèque Royale.” (アカデミーが目下ルーヴル宮に占める、亡き太后陛下の御居域の内なる認許区画は、この方が王より取得されたものである。現在の区画は、王立図書館・設置予定区域内に以前所有した区画の代替として得られた。) ——絵画彫刻アカデミーが<王立図書館・予定区域>内に場所を得たのは<1702年>のことであった (後註 [74] 参照)。アカデミーはこの場所を、「協会 [= アカデミー] の絵画彫刻を展示する為に」(pour [...] y exposer les tableaux et sculptures de la Compagnie: II (D): 1648–1793 PvAP, III, 353 [Du samedi 21 Octobre 1702]) 取得した。そして<1712年3月2日>、王立図書館にこの場所を明け渡すが、その代わりとして、アカデミーは「太后の居域」——すなわちアンヌ＝ドートリシュの居域——に新しい場所を与えられたのであった (Cf. 1725 Brice, I, 117; 1752 Brice, I, 122)。
- (71) 挿図19《サロン・カレを含む王の占有居域》プラン: BN Topo, Va 218 c. ——いずれの図面についても、「アポロンのギャルリー」のすぐ上に«Bibliothèque»の室名を認め得る。なおル＝ヴォーによる「サロン・カレ」の計画は、第1プランより後、1663年以前に立てられている (Cf. 1927

Hauteceur, 119)。また、挿図 18 については前註 (49) を参照。

- (72) コルベールの出納記録が明瞭にこれを教える。例えば 1673 年度予算として、「王の大陳列室」から絵画を移す為、王立図書館用の区画を絵画陳列室に変更する費用が組まれている（前註 [59] を参照）。その記載は、「王の陳列室」の絵画を収蔵し得るよう図書館に予定されていた区域を改装する為（*Pour mettre le lieu qui estoit destiné pour la bibliothèque en estat d'y serrer les tableaux du cabinet du Roy 1664-1715 CBR, I, col. 678*）と記されている。王立図書館用の区画が絵画陳列室に吸収されていくことは、この記載からも明白である。
- (73) 「王の絵画を収蔵し得るよう図書館を改装する為に」（*pour mettre la bibliotecque en estat d'y serrer les tableaux du Roy 1664-1715 CBR, I, col. 684 etc.*）左官工事、指物装着、扉と窓の装飾が 1673 年に始められる。左官工事は 73 年 6 月 16 日から 74 年 7 月 20 日までの間に行われ、合計 5751 リーヴル 7 ソルが支払われている（*Ibid. col. 683, 741*）。指物に関する作業は 73 年、74 年、75 年の 3 年間に亘り、合計 9083 リーヴル 8 ソル 4 ドゥニエが支払われる（*Ibid. col. 684, 742, 1240*）。扉と窓に青銅装飾を施す作業は 73 年から 74 年 10 月 5 日までの間に行われ、合計 5271 リーヴルが支払われている（*Ibid. col. 685, 744*）。
- (74) 1702 年、絵画彫刻アカデミーに権利が与えられたのは「大広間に隣り合うサロンとこれに続く部屋」（*le salon joignant la grande salle et salle qui est ensuite*）であった（1648-1793 *PvAP*, III, 353）。前者が「サロン・カレ」を指し、後者が図書館予定区画の内、現在の“*Salle Duchâtel*”及び“*Salle Percier et Fontaine*”を指すことは、挿図 17 の見取り図面からも明らかである（*Cf. 1927 Hauteceur, 197*）。
- (75) 王所有絵画がダンタン公爵邸及び「アポロンのギャルリー」に移されたことは、フリスの記述によりこれを確認することが出来る。先ず、この移動は 1717 年より前に執り行われている。この点は、同年に刊行されたフリス記述書から知り得る。1717 年の記述書は、「王の絵画陳列室」に関し次のように記す。「[王の絵画の] 極めて多くがウェルサイユの諸居域に置かれてより後、加えて…爾余の作品がダンタン公邸へ移されてから、大いさの為ウェルサイユ宮にもダンタン公邸にも場所を見出し得なかった王の絵画はくアポロンのギャルリー」に置かれたのである。……」（*. depuis que la plus grande partie a été placée dans les appartemens de Versailles, & le reste dans l'hôtel d'Antun | | : ceux qui n'ont pû trouver leur place à cause de leur grandeur, ont été mis dans la galerie d'Apollon, · II (A). 1717 Brice, I, 63*）移動が 1717 年以前に行われたことは記述により明白である。
- 絵画陳列室に関するこの記述は、ダンタン公の邸宅を巡る次の記述と正確に符合する。「1713 年以来、ダンタン公はこの大邸宅を所有なさっておられる。その邸内を、公は見事に装飾された。大方の年月、邸内は陛下の陳列室より移された、この上なき諸絵画を以って飾られている。」（*..Duc d'Antun | | est en possession de ce grand hôtel, depuis l'année 1713. Il a merveilleusement embelli les dedans, qui sont ornez la plus grande partie de l'année de tableaux exqus, tirez du cabinet de Sa Majesté. 1752 Brice, I, 392*）
- 1717 年の記述は、更に「王の絵画陳列室」を巡る後年の記述とも符合する。ウェルサイユ宮へ作品が移送される以前の部屋の壮観を述べたフリスは、その直後にこう続けている。「しかし今日でも…くアポロンのギャルリー」には稀に見る諸作、取り分けてパオロ・ヴェロネーゼの《カナの婚礼》を見ることが出来る。これは極めて大型の絵画である。……」（*Il reste cependant encore à voir des piéces très-rares dans la galerie d'Apollon | |, sui-tout les nûces de Cana, de Paul Veronese, qui est un tableau extrêmement grand, · 1725 Brice, I, 65.*）この作品はまさしく「大いさの為」、このギャルリーに置かれたものと捉えられる。
- (76) 1717 *Brice, I, 53* ——記述そのものは前註 (67) に転記した 13 年のそれと同 である。

- (77) I (A-2): 1762 Dezallier, IV, 40. “..dans le plafond d’une des salles de l’académie de peinture,..” 同じく次に挙げる史料も「絵画〔彫刻〕アカデミーの一室」にこの作品を記す。1709–10 Inven Bailly (Poussin N°33 への後追記); 1710 Inven Coypel (N°48 への欄外後追記); I (A-3): 1828–34 Duchesne, II, 112.
- (78) <1734 年>の部屋取得を巡り、絵画彫刻アカデミーの記録は次のように記している。「…リゴ氏からお渡しあった、サロンに隣り合う部屋を求める陳情書をば、書記官はダンタン公爵閣下にお読み申し上げた。かつてこの部屋を、当アカデミーは10 年の間所有したものであった。そして、ダンタン公爵閣下がアカデミーにその部屋をご許可あそばされたことを告知すべく…リゴ氏への書状がしたためられたる後、書記官はリゴ氏に、協会 [= アカデミー] の名を以ってその御札を申し上げた。……」(Le Secrétaire a lu un Mémoire présenté par M' *Rigaud*, [...] à Monseigneur le Duc d'Antin pour lui demander la sale qui est à coté du salon, qu'elle a possédée cy-devant l'espace de dix ans, et, après une lettre écrite [...] à M. *Rigaud* pour lui apprendre que Mgr le Duc d'Antin a acordé cette pièce à l'Académie, de quoi le Secrétaire a remercié M' *Rigaud* au nom de la Compagnie,...: 1648–1793 PvAP, V, 148–9.) ——ここに云われる「サロン」は勿論「サロン・カレ」を意味し、これに「隣り合う」部屋は旧「王の絵画陳列室」を指す。この点は、下線を施した「かつてこの部屋を…10 年の間所有した」という記載からも確認し得る。「絵画陳列室」内の区画を、同アカデミーは1702 年から12 年までの丁度10 年間所有した。前註(69)及び(70)を参照。また「リゴ氏」とは、1733 年から同アカデミー共同主宰者の地位にあった‘Hyacinthe François Honoré Mathias Pierre André Rigaud (1659–1743)’を指す。
- (79) 次の史料中の記述或いは見取り図面により、このことは明瞭に知られる。II (A). 1752 Dezallier, 42–3; II (B): 1752–4 Blondel, IV, 36–8 et pl.VI; BN Topo, Va 218 a et Va 218 c.
- (80) 1752 Dezallier, 43; I (A-3): 1752 Lettre (挿図 23: ligne 6); 同: 1804–28 Lavallée, VI, (3). ——これらの内、「小会議室」と記すのは“1752 Lettre”である。1752 年2 月12 日付のこの文書は、1747 年以来「首席画家」にして「絵画彫刻アカデミー主宰」の立場にあったコワペル (Charles Antoine Coypel, 1694–1752) から提出された請願書である。
- (81) 1752–4 Blondel, IV, pl. VI (部屋割り説明: Id..36–8) ——ブロンデル (1705–74) は1755 年王立建築アカデミー会員に選出され、62 年‘professeur’の地位に就いた。経歴よりしても彼の図面の正確さに疑いを挟むことは困難である。
- (82) 1828–34 Duchesne, II, 112. 「…この作品は絵画アカデミー所有する諸室の内なる一天井を飾ったが、その部屋の所在は、今日美術館の大階段の伸びる場所であった。」“..il [i. e. ce tableau] a décoré le plafond d’une des salles de l’Académie de peinture, à l’endroit où est maintenant le grand escalier du Musée.”
- (83) 挿図 21 : ペルシエとフォンテーヌ《ナポレオン美術館の新階段》——階段の先、画面最奥に「サロン・カレ」入口が見える。中ほどの踊り場から手前に戻る上昇階段は「アポロンのロトンド」へ繋がっていた。なお、この所謂「ナポレオン階段」を巡り、II (B): 1928 Hauteceœur (84); I (A-4): 1949 Christ (86); II (B): 1999 Malgouyres (40) が挿図を含め有益であった。
- (84) 挿図 22 a 《「大階段」の位置を示すルーヴル宮1 階図面》(BN Topo, Va 440 a) : 22 b 《同・2 階図面》(II (B): MC Topo, GC D 8083) ——1883 年に建造された「ダリュ階段」は、この「ナポレオン階段」の一部を利用しつつ、向きを90 度回転させたものである。
- (85) 本論前註(40)及び挿図 23 (ligne 7–10) を参照。更にII (B): 1895 Babeau (200) を参照。
- (86) 1762 Dezallier, IV, 40. “..le Tems qui deliver la Vérité [...] étoit dans le plafond d’une des salles de

l'académie de peinture, il est présentement dans la galerie d'Apollon:.”（《「真実」を救い出す「時」》…は、以前の所在が絵画アカデミー所有する諸室の内なる一天井であり、現在のそれは「アポロンのギャラリー」である。）——デサルイエ＝ダルシャンウィーユは、ティドロ・ダランベール編『百科全書』に執筆を求められた評価高い博物誌家であった（Cf. Diderot & D'Alembert. *Encyclopédie*, VII, 1757, xiv）。美術史に属する記述も、最新の美術事典がその正確さを強く認めるものである。TURNER, Jane [ed] *The Dictionary of Art* VIII 1996 Grove, 845

- (87) II (D) 1781 Dezallier (69–80) によりこの点を確認し得る。この書の同箇所には、当時「アポロンのギャラリー」に所在した諸作品が明記される。その中に《「時」と「真実」》は含まれていない。
- (88) I (A-3) 1796 Nouce, Ecole française, N° 138 “Tableau qui servait de plafond dans une chambre de l'appartement d'Henri IV, au Louvre: Le Temps enlève la Vérité.”（ルーヴル宮、アンリ IV 世による据域の一室に天井画として用いられた絵画——《「時」は「真実」を引き上げる》）
- (89) I (A-3) Before ca 1670 Sauval, II, 37 “la petite Gallerie fut commence sous Charles IX. & achevée sous Henri IV, par Chambiche jusqu'au premier étage,”（「プティ・ギャラリー」はシャルル IX 世の下に着手され、アンリ IV 世の下、シャンピシュにより 2 階まで完成された。…）, *Ibid* 42 “La sale des Antiques fut commence du tems de Catherine de Medicis, achevée par Henri IV.”（「アンティークの間」はカトリーズ＝ド＝メティシスの御代に着手され、アンリ IV 世の下に完成された。）——ソヴァール時代の「アンティークの間」は今日の「アウグストゥスの間」に当たる（例えば 1928 Hauteceur, 31–2 参照）。またソヴァール書の刊行は 1724 年のことであった。更に 1766 年にも、ルーヴル宮の造営にアンリ IV 世の果たした役割が記される（I (A-3) 1766 Hébert, 283）。これらの点から見て、1796 年の目録に「アンリ IV 世」の名が登場することは決して不自然でない。
- (90) I (A-3) 1792 Inven, N° 123 ——更に進んだ位置特定を可能ならしめる史料に、現時点で筆者は出会っていない。
- (91) II (A) 1877 Villot, xxxvii; 1928 Hauteceur, 78
- (92) II (A) 1792–3 Comm, 1 ——委員会に関する文書を蒐集したこの史料と II (B) 1790–3 PxCM により、この委員会の動きをわれわれはかなり克明に辿り得る。
- (93) 1792–3 Comm, 3–20
- (94) 1792–3 Comm, 23
- (95) 1792–3 Comm, 200 ——ブノサン諸作の設置完了は、国民公会に宛てた内務大臣カラ（Joseph-Dominique Garat, 1748–1833）の書状（1793 年 7 月 4 日付）中に告知されている。またこの日までに作品設置を終えた他の画家として、同書状はラファエッロ、ルーベンス、ティツィアーノ、カラッチ、コレッショ、ル＝シュウール、ル＝ブラン等の名を記す。
- (96) 1792–3 Comm, 233 “La Convention nationale [] décrète ce qui suit, Article premier —— Le minister de l'Intérieur donnera les ordres nécessaires pour que le Musée de la République soit ouvert le 10 août prochain dans la galerie qui joint le Louvre au Palais national .”
- (97) A N F/17/1267, N° 455, 1792–3 Comm, 404
- (98) II (A): 1797–8 PxCa, 79 “Ce jourd'hui [] le jury s'est assemblé dans la grande Galerie du Musée pour y examiner les tableaux du Poussin sur lesquels il doit délibérer [.] Il décide à la majorité que L'institution de l'Eucharistie, Le tems qui enlève la vérité; L'enlèvement des Sabines, Le Jugement de Salomon [.] resteront de même au Musée central .”（審議対象となるブノサン諸作実見の為、本日…審査委員たちが美術館のグランド・ギャラリー内に集合した。……賛成多数を以って委員は、《聖餐の創設》《「真実」を引き上げる「時」》《サビニの女たちの略奪》《ソロモンの審判》…も同じく中

央美術館に残ることを決議している。……)

(99) 1828–34 Duchesne, II, 112; II (A): 1850 Inven, fol 116, N° 7301; II (F): 1886–1902 GE, XXII, 697.

[付記] 本稿は平成 12–14 年度文部科学省科学研究費補助金による研究成果の一部である。

《主要文献Ⅱ》

(A) 《「時」と「真実」》の移動に関する史料

1662 Gazette: *La Gazette de France*, N° 38. Paris.

1691 Levé: A.N.O¹ 1964⁶, 《Levé des scellés》.

1692 Inven: A.N.O¹ 1964⁶, 《Inventaire de 1692》.

1706 Inven: A.N.O¹ 1970; 1971; 1972; 1975.

1713 Brice: BRICE, Germain. *Description de la ville de Paris*,...[6 ed.] Paris: François Fournier.

1717 Brice: BRICE, G. *Ibid.* [7 ed.] Paris: François Fournier.

1752 Dezallier: DEZALLIER d'ARGENVILLE, Antoine-Joseph. *Voyage pittoresque de Paris*,...2 ed.Paris: De Bure l'aîné.

1792–3 Comm: [Documents recueillis et annotés par] TUETÉY, Alexandre et Jean Guiffrey. 《La Commission du muséum et la création du musée du Louvre (1792–1793)》. *AAFN* III, 1909.

1797–8 PvCa: *Musée du Louvre (Janvier 1797–juin 1798): Procès-verbaux du Conseil d'administration du “Musée Central des Arts”*. Document par Yveline Cantarel-Besson. Paris: R.M.N., 1992.

1850 Inven: Musée du Louvre, Cabinet de “Service documentation de peinture”, 《INV [Inventaire]》.

1877 Villot: VILLOT, Frédéric. *Notice des tableaux exposés dans les galeries du Musée national du Louvre* Paris: Charles de Mourgues.

1924 Brière: BRIÈRE, G..*Musée national du Louvre. Catalogue des peintures exposées dans les galeries*. Paris.

(B) 「ルーヴル宮」に関する史料及び研究書

AN Plans: A.N.O¹ 1669⁴.

BN Topo: BNF, Cabinet des estampes. 《Topographie: Le Louvre-Intérieur》.

MC Topo: Musée Carnavalet, Cabinet des estampes. 《Topographie》.

ML Rec: Musée du Louvre, Cabinet des dessins. 《Recueil du Louvre》.

1664–1715 CBR: [Éd. par] GUIFFREY, Jules. *Comptes des bâtiments du Roi sous le règne de Louis XIV*. 5 vols. Paris: Imprimerie Nationale, 1881–1901

1681 MG: *Le Mercure galant* Paris.

1684 Brice: BRICE, Germain. *Description nouvelle de ce qu'il y a de plus remarquable dans la ville de Paris*. Paris: Audinet.

1687 Brice: BRICE, G. *Ibid.* [2 ed.] Paris: Nicolas le Gras.

1698 Brice: BRICE, G. *Description nouvelle de la ville de Paris*,...[3 ed.] Paris: N. le Gras.

1701 Brice: BRICE, G. *Ibid.* [4 ed.] Paris: N. le Gras.

1706 Brice: BRICE, G. *Ibid.* [5 ed.] Paris: Augustin Brunet.

1725 Brice: BRICE, G. *Nouvelle description de la ville de Paris*,...[8 ed.] Paris: François Fournier.

- 1752 Brice: BRICE, G. *Description de la ville de Paris*. [9 ed.] Paris: Libraires Associés
- 1752–6 Blondel: BLONDEL, Jacques-François. *Architecture française*, 4 vols. Paris: C.-A. Jombert
- 1757 Dezallier: DEZALLIER d'ARGENVILLE, Antoine-Joseph. *Voyage pittoresque de Paris*, 3 ed., Paris: De Bure l'aîné
- 1765 De la Force: PIGANOL de LA FORCE, Jean-Aymar. *Description historique de la ville de Paris et de ses environs*. Paris: G. Desprez
- 1790–3 PvCM: [Éd. par] TUETÉY, L. 《Procès-verbaux de la Commission des monuments》. NAAF XVII, 1901
- 1881 Merson: MERSON, Olivier. 《Les logements d'artistes au Louvre à la fin du XVIII^e siècle et au commencement du XIX^e》. In: *GBA XXIII*. Paris
- 1895 Babeau: BABEAU, Albert. *Le Louvre et son histoire*. Paris: Firmin-Didot
- 1928 Hauteœur: HAUTECŒUR, Louis. *Histoire du Louvre. Le château-Le palais-Le musée des origines à nos jours 1200-1928*. Paris: L'Illustration
- 1961 Hillaret: HILLAIRET, Jacques. *Le palais du Louvre*. Paris: Minuit
- 1987 Daufresne: DAUFRESNE, Jean-Claude. *Louvre & Tuileries. Architectures de papier*. Paris: Pierre Mardaga
- 1999 Malgouyres: MALGOUYRES, Philippe. *Le musée Napoléon*. Paris: R.M.N.
- (C) 「王立図書館」に関する史料及び研究書
- 1691–1736 Lettre: A.N. O¹ 1671/A, 《Bibliothèque du Roi》.
- 1673 MG. *Le Mercure galant*. Paris.
- 1782 LePrince: LE PRINCE. *Essai historique sur la bibliothèque du Roi*, Paris: Belin.
- 1870 Franklin: FRANKLIN, Alfred. *Les anciennes bibliothèques de Paris*. Tome II. Paris: Imprimerie Impériale
- 1955 Leyh: LEYH, Georg hrsg. *Geschichte der Bibliotheken (Handbuch der Bibliothekswissenschaft Bd. III-1)*. Wiesbaden: Otto Harrassowitz
- (D) 「絵画彫刻アカデミー」に関する史料
- 1648–1793 PvAP: [Éd. par] MONTAIGLON, Anatole de. *Procès-verbaux de l'Académie royale de peinture et de sculpture*. 10 vols. Paris: F. de Nobele, 1875–92
- 1668 Conférences: *Conférences de l'Académie royale de peinture et de sculpture pendant l'année 1667*. Paris: Frederic Leonard.
- 1715 Guerin: GUERIN. *Description de l'Académie royale des arts de peinture et de sculpture*. Paris: Jacques Collombat
- 1781 Dezallier: DEZALLIER d'ARGENVILLE, Antoine-Joseph. *Description sommaire des ouvrages de peinture, sculpture et gravure exposés dans les salles de l'Académie royale*. Paris: Bure.
- (E) 「画家」に関する史料
- 1752 Lépicié: LÉPICIE, F.-B. *Vies des premiers peintres du Roi*. 2 vols. Paris: Durand et Pissot
- 1776 DA: DE FONTENAI, Abbé. *Dictionnaire des artistes*, 2 vols. Paris: Vincent.
- (F) 上記以外の史料
- 1663–1715 IMCL: [Éd. par] GUIFFREY, Jules. *Inventaire général du mobilier de la couronne sous Louis XIV (1663-1715)*. 2 vols. Paris: Le Siège de la société, 1885
- 1751–6 Voltaire: VOLTAIRE. *Le siècle de Louis XIV*. 2 vols. Paris: Garnier-Flammarion, 1966
- 1886–1902 GE: *La grande encyclopédie inventaire raisonné des sciences, des lettres et des arts*. 31 vols. Paris: H. Lamirault.

ニコラ＝プッサンの《「時」と「真実」》（ルーヴル美術館所蔵）

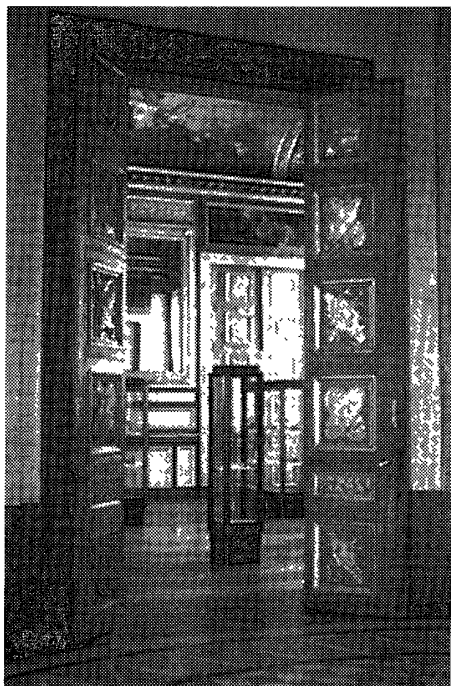


図12 ルーヴル宮「王の大陳列室」
（現在の様子／撮影筆者）

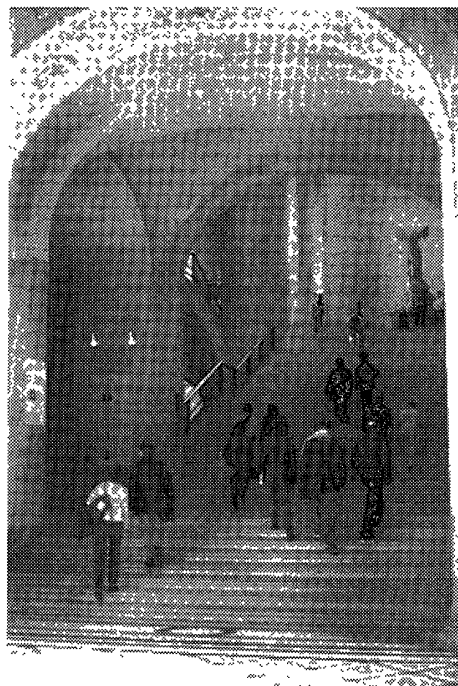


図14a ルーヴル美術館「ダリュユ階段」(撮影筆者)

図13a 「ガゼット＝ドゥ＝フランス (N°38)」
タイトル・ページ

図13b 同「1662年4月1日付記事」



図14b ルーヴル宮「王の絵画陳列室」の図画
※タリユ階段踊り場からサロン・カレ入口を望む
(撮影筆者)

図15 「《「時」と「真実」》の記載を含む千室
絵画記録」1690年(国立文書館)

図16 F トルヘー「ルーヴル宮2階の部屋割り図面」1692年, ルーヴル美術館(RMN.)

ニコラ＝プッサンの《「時」と「真実」》（ルーヴル美術館所蔵）

図 17 b 「同図面（部分）」

図 17 a 「1692 年のルーヴル宮 2 階を記した図面」
1732 年（フランス国立図書館）

図 18 ルイ＝ル＝ヴォー「ルーヴル宮 2 階〈王の占有居域〉拡張第 1 プラン（部分）」
1661 年頃，ルーヴル美術館（R.M.N.）

図19 ルイ＝ル＝ヴォー（？）「サロン・カレを含む（王の占有居域）プラン（部分）」
1663年以前（フランス国立図書館）

図20 J.-F. ブロンデル「1752年頃のルーヴル宮
2階見取り図面（部分）」1752年

図21 ペルシエとフォンテーヌ「ナポレオン美術
館の新階段」1807年頃、彩色素描
エルミタージュ美術館（1999 Malgouyres より）

ニコラ＝プッサンの《「時」と「真実」》（ルーヴル美術館所蔵）

図 22 a ペルシエとフォンテーヌ「〈大階段〉の位置を示すルーヴル宮 1 階図面（部分）」
1810 年頃（フランス国立図書館）

図 22 b フォンテーヌとロンドウル「同 2 階図面（部分）」1808–9 年（カルナヴァレ博物館）

図24 ルーヴル宮2階「アポロンのギャラリー」
現在の様子（R.M.N.）

図23 「コワペルによる請願書」1752年
（国立文書館）



図26 H. ロベール《ルーヴルのグラント・ギャラリー》1796年頃、油彩、画布、37×41 cm
ルーヴル美術館

図25 ルーヴル宮1階「ブティ＝ギャラリー」
現在の様子（撮影筆者）